

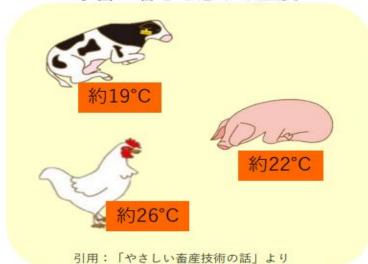
家畜衛生だより

埼玉県中央家畜保健衛生所

電話: 048-663-3071 緊急: 090-2757-1650 Fax: 048-666-8731 メール: m633071@pref.saitama.lg.jp

家畜における暑熱被害に備えるために

家畜が暑さを感じる温度



畜産への被害

家畜のへい死



乳量の低下

食欲不振

繁殖能力の低下

暑熱被害を防ぐためには、事前の 「備え」 が重要です

家畜の体感温度の低下に努める。

飼育密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水、散霧を 行い家畜の体感温度を低下させることが重要です。

☑ 畜舎環境を改善する。

寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置及び 屋根への消石灰の塗布等を行うことが重要です。

✓ 飼養管理

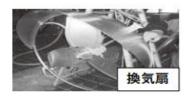
良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で 冷たい水の給与をすることが重要です。

✓ 飼料作物の管理

夏枯れ等により草勢の低下が見られた場合には、必要に応じて追播や、 は種直後の雑草防除等適確な維持管理作業を行うことが重要です。







速やかに手当金を受け取るためには

高病原性鳥インフルエンザや豚熱、口蹄疫が発生した場合、発生農場の畜産経営を支 援するために国から手当金が交付されます。手当金の申請には、出荷伝票や購入伝票 などの書類が必要ですので、日頃から伝票等を整理・保管しましょう。

手当金を申請するために必要な書類の詳細は、農林水産省 HP をご覧ください。

高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、口蹄疫など発生させないために、 日頃から飼養衛生管理基準を守って家畜・家きんの管理をお願いします。

EU等へ輸出する牛肉にはホスホマイシン・エストラジオールが使用できません

EU等向けに輸出される牛肉由来の牛には、EU等で使用が禁止されている動物用医薬 品を出生からと畜されるまでの間、一度も使用してはいけないこととなっています。

このうち、我が国で承認されているホスホマイシン(抗菌剤)及びエストラジオール(性ホル モン剤)の成分を含む製剤については、生涯一度も使用していないことを確認した上で輸出 する体制を整備する必要があります。

このため、EU向け認定施設に牛を出荷する場合は、両成分を含む製剤を使用していない ことの確認として、以下が必要になります。

- ① EU等使用禁止薬剤不使用申告書の提出
- ② EU等使用禁止薬剤不使用合意書の作成・保管

また、繁殖農家および酪農家は、①を家畜市場や肥育農家から求められる場合があります。

詳細については農林水産省の HP をご覧ください。





エストラジオール安息香酸エステル:発情誘起、発情同期化

繁殖障害の治療薬

ホスホマイシン:子牛の肺炎・下痢症の治療薬

牛ウイルス性下痢(BVD)のバルク乳検査を実施します

今年度も持続感染牛(PI牛)を早期に発見するため、バルク乳を用いたスクリーニング検査 を実施します(無料、年2回予定)。第1回については以下のとおりです。

検査日程:令和7年8月28日(木)

検査材料:バルク乳(クーラーステーションにて採材)

検査方法:遺伝子検査

※ 第2回の検査は令和8年2月を予定しています。

埼玉県中央家畜保健衛生所 (さいたま市北区別所町 107-1) TEL: 048-663-3071

(24 時間、土日祝日も受付)